

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。



若者に覆された昭和の精神論



プロ・アマを問わず、スポーツの世界では海外で活躍する日本人が増えています。野球、サッカー、ゴルフ、テニス、卓球、各種陸上競技等々、オリンピックメダリスト達を含めれば、その数たるや数え切れない人数になります。

私のような昭和生まれは、その少年時代に多くのスポーツで日本人選手と海外選手の埋めることのできない体格差やパワーの違いを目の当たりにし、まず互角の勝負は出来ないと信じきってきた世代です。

しかしボクシングはそんな身体的条件の有利・不利が少ないスポーツです。しっかり体重別でクラス管理されるので持って生まれた体格の大小が勝負に影響することは少ないといえるでしょう。その一方でボクシングは精神面の優劣をことさら強調されたスポーツでもありました。国内に世界チャンピオン不在の期間があったとき、「最近の日本の若者は贅沢になりすぎてハングリー精神が欠けていることが原因」との評論について批判する意見はありませんでした。

昭和の精神論の特長として「ハングリーであること」と「不幸せな境遇であること」が同義語化して、暮らし向きの良い普通の子供では世界チャンピオンになれない、といったおかしな風潮がまかり通ったのです。

時は平成となり、マー君、ダルビッシュ、イチロー、大谷。そしてボクシングミドル級の世界チャンピオンに君臨する村田諒太など世界から注目される若者の数は年々増えています。そんな彼らの口からはレツテル張りの精神論は微塵も聞こえてきません。スポーツ界に限らず私たちの企業社会の中にも根拠のない精神論を覆す、頼もしい若者であふれているはずだ、と思うのです。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎